

## 第 11 章 図書・電子媒体等

## 第 11 章 図書・電子媒体等

### 【到達目標】

本学図書館は京都外国語大学の学則の定めるところにより、附属機関として設置されている。従って、「言語を通して世界の平和を」を謳う建学精神と学内での自主性に基つきながら、学内の教育・研究を資料と情報面から強力に支援している。また、図書館が所蔵している資料は人類共有の知的資源であることから、広く社会に開かれた施設として運営している。これらの機能をさらに高め、能動的な図書館としていくための基本的な目標は下記の通りである。

- ① 図書・学術雑誌など資料の体系的整備と量的整備を行い、学内の教育と研究を支援する
- ② 館内の施設や設備などの環境整備を進めるとともに、開館日数など利用者にとっての利便性を図る
- ③ 発信型図書館を目指し、学術情報の処理・提供システムの整備を進め、国内外の図書館との協力を計る
- ④ 学術資料の記録・保管のための管理体制を見直しながら発展させる

### （図書、図書館の整備）

図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他教育研究上必要な資料の体系的整備とその量的整備の適切性

#### 【現状の説明】

本学図書館は、中央館である本館と同じキャンパス内にある分館のアジア関係図書館からなっており、学内の教育・研究のための学術情報を収集し、整理蓄積して広く学外の方々の利用にも供している。

#### (1)蔵書数

本学図書館の蔵書総数は 506,190 冊で、本館に 416,219 冊を所蔵し、分館であるアジア関係図書館には 89,971 冊を所蔵している。学術雑誌の総数は本館と分館を合わせて 4,023（内、継続 2,477）種で、本館に 3,625（内、継続 2,353）種、分館に 398（内、継続 124）種をおき、刊行後一年を経過したものは全て分館の集中書架で保存・管理する。視聴覚資料は本館と分館を合わせて 15,108 点を所蔵する。また、学外データベースは電子ジャーナルを含め 19 種と接続し、図書館内だけでなく学内端末からも利用できる。

#### (2)収集体制

本学図書館の選書は、学内の教育・研究を支援するため「資料収集方針」に基づいて行われる。この方針に沿って、教員と図書館員が実施に当たる。

その選書方法は、毎年教務部が刊行している『講義概要』の中で教員が示した授業の「参考文献」を網羅的に収集する。また、学科単位や教員個人が推薦する学生用図書を収集すると共に、図書館が利用傾向に基づき収集している資料や学生の購入希望制度を

含めて授業内容と蔵書構成の一致を計り、複数の角度から資料を収集して授業を支援できるようにしている。さらに、近年は図書館で働くアルバイト学生の意見を参考にして、我が国の現代小説も収集するなど、選択の方法と蔵書構成の幅を広げている。

研究活動を推進する教員は、自らが必要な資料を選定して図書館へ収集を依頼し、図書館は学科ごとの研究室予算に基づいて購入し、書誌データの作成後に図書館から研究室へ貸し出している。また、大学院生用の研究資料についても毎年、必要な資料の希望を調査して収集し、大学院生研究室へ貸し出している。また、図書館内には大学院生用閲覧室（第3閲覧室）を設け、辞書を中心に専門性の高い参考文献を配架している。

学外データベースとの接続は、各学科の教員の希望を聞きながらそれぞれの学科が可能な限り公平に利用できる内容のものを図書館が選択している。

資料購入費は下記の表に示すように、2007年度は67,756千円であった。

なお、過去3年間の資料購入費の推移は、表11-1のとおりである。

表 11-1 (千円)

		2005年度	2006年度	2007年度
図 書	和 書	18,003	18,565	18,969
	洋 書	26,827	26,883	26,534
雑 誌	和 書	8,015	8,261	8,819
	洋 書	12,334	12,736	13,434
合 計		65,179	66,445	67,756

※大学・短期大学共用

また、2007年度の外部データベースの接続経費は5,089,140円であった。

過去3年間のこの経費の推移は表11-2のとおりである。

表 11-2 (円)

	2005年度	2006年度	2007年度
外部データベース接続料	3,824,619	4,855,145	5,089,140

※大学・短期大学共用

### (3) 蔵書構成

本学図書館の2007年度の蔵書総数(視聴覚資料含む)は506,190冊で、後に詳述する学術雑誌と共に、学内の教育と研究を資料面から支援している。

蔵書構成の詳細については、学科として設置された外国語とその言語圏の国と地域を総合的に教育・研究するための人文・社会科学系分野の資料を重点的に収集している。具体的には和書・洋書共に、語学、哲学、歴史、社会科学、産業、芸術、文学などの分野の資料を中心に据え、言語ごとのコレクションを構成している。特に、洋書の言語・語学分野については、毎年、各言語の語学研究書を網羅的に収集するように努めている。和書については前述の分野の資料を予算が許す限り収集して、所蔵数に違いはあるものの世界の全ての国に関する研究資料を集めている。

さらに、分館(アジア関係図書館)では上記の蔵書のうち、ロシア、スエズ運河以東の地域を対象とした洋書と漢籍・中国関係和書を中心に所蔵している。

なお、言語圏の語学や文化をより深く研究するための稀覯書資料は後に詳述するよ

うに「我が国の対外交渉史料」、「対外交渉を描いた浮世絵」、「ニッポナリア——西洋言語で書かれた日本研究書」、「世界の探検と航海」、「世界の古刊地図」、「世界の児童図書」、「西洋古辞書・古事典」、「世界の人たちの自筆書簡」、「世界を変えた理論」など全部で29タイトルのスペシャル・コレクションを構成している。

このスペシャル・コレクションの一覧は表11-3のとおりである。

表11-3

		貴重書のみ	一般図書	貴重書、一般図書を含む
我が国の対外交渉史料	600点	○		
対外交渉を描いた浮世絵	120点	○		
ニッポナリア	14,000点			○
世界の探検と航海	100点	○		
世界の古刊地図	70点	○		
世界の古聖書	390点	○		
西洋古辞書・古事典	1,160点	○		
世界の児童図書	70点			○
世界の人たちの自筆書簡	130点	○		
世界を変えた理論	40点	○		
ウィリアム・シェイクスピア	6,600点			○
サミュエル・ジョンソン	430点			○
チャールズ・ディケンズ	1,210点			○
マルティン・ルター	70点			○
ヨーハン・W・フォン・ゲーテ	1,260点			○
フリードリヒ・フォン・シラー	900点			○
ライナー・M・リルケ	400点			○
オノレ・ド・バルザック	550点			○
ミゲール・デ・セルバンテス	520点			○
アメリカーナ	270点		○	
オーストラリア文学	3,000点		○	
メキシカーナ	40点			○
スルタン・ハミド	350点	○		
チャイナ(欧文による中国研究書)	10,000点		○	
ラフカディオ・ハーン	260点			○
ヴェンセスラウ・デ・モラエス	40点	○		
日本文化を海外に紹介したちりめん本	270点	○		
世界で読まれる源氏物語	530点		○	
ダンテ・アリギエーリ	53点			○

※大学・短期大学共用

#### (4) 図書の受け入れ

2007年度の受け入れ冊数は7,685冊であった。

なお、過去3年間の図書の受け入れ状況（視聴覚資料を除く）は表11-4のとおりである。

表11-4 (冊)

		2005年度	2006年度	2007年度
和書	購入	4,076	4,423	5,332
	寄贈	377	366	490
計		4,453	4,789	5,822
洋書	購入	2,242	1,720	1,660
	寄贈	125	71	203
計		2,367	1,791	1,863
合計		6,820	6,580	7,685
全蔵書冊数		479,730	484,894	491,082

※大学・短期大学共用

#### (5) 学術雑誌

本学図書館は2007年度に学術雑誌を2,477種（継続分）受け入れた。

なお、過去3年間の学術雑誌（継続分）の受け入れ状況は表11-5のとおりである。

表11-5 (種)

	2005年度	2006年度	2007年度
和雑誌	1,893	1,897	1,914
洋雑誌	569	564	563
合計	2,462	2,461	2,477

※大学・短期大学共用

また、電子ジャーナルはアメリカエブスコ社の「Master File Premier」（全文1,730誌以上）と「Newspaper Source」（アメリカの25種の全国紙と260の地方紙からの抜粋記事）などに接続している。この詳細は、後に述べる（情報インフラ）の「(2) データベース」の表に記載したとおりである。

#### (6) 視聴覚資料

本学には外国語大学として図書館とは組織を別にするマルチメディア教育研究センターがあり、教材を中心とする資料は同センターが取り扱っている。こうした中において、図書館では地図や絵画、マイクロフィルム（マイクロフィッシュを含む）をはじめ、辞書、百科事典類の内容を収録したCD-ROMや、図書に付随した、いわゆる付録型のCD-ROM、さらにカセットテープの収集・保存を行っている。

なお、過去3年間の視聴覚資料の受け入れ状況は表11-6のとおりである。

表 11-6

(点)

	2005年度	2006年度	2007年度
受入タイトル数	476	421	503
総タイトル数	14,184	14,605	15,108

※大学・短期大学共用

## 図書館の規模、開館時間、閲覧室の座席数、情報検索設備や視聴覚機器の配備等、利用環境の整備状況とその適切性

### 【現状の説明】

限られた条件の中で可能な限り工夫を凝らしながら新しいスペースや機能を導入して、利用者に利便性を高めることを目指して運営している。

#### (1) 図書館の規模

本学図書館は中央館である本館と分館であるアジア関係図書館からなっており、双方は徒歩で約5分以内に移動できる距離にある。

本館は地下1階、地上3階の書庫を中央に置き、その書庫を挟む形で南北に情報カウンターなどの資料流通コーナーと3つの閲覧室を配したものとなっている。規模は、延べ面積2,358 m<sup>2</sup>で、1階にはレファレンスカウンターをはじめ、教員・大学院生のための第3閲覧室、AV閲覧室、資料流通ホール、点字翻訳閲覧室や館長室、事務室、サーバ室などが配され、2階には第1閲覧室と第2閲覧室があり、この2つの閲覧室に隣接する部分にはそれぞれ複数の端末機を設置した検索コーナーを有している。地下にも同じく複数の端末機を備えた地下書庫閲覧室が設置されている。

また、分館は本学の国際交流会館の2階にあり、延べ面積は565 m<sup>2</sup>で閲覧室、事務室、地下1階地上3階の書庫から成っている。

さらに、隣接する8号館には本館に付随する合計面積112 m<sup>2</sup>の第4・第5閲覧室があり、時間的には約2分で移動することができる。

館内の面積や閲覧座席の配分は表11-7のとおりである。

表 11-7

	名 称	面積(m <sup>2</sup> )	閲覧席数(席)
本館 7号館	第1閲覧室	232.16	168
	第2閲覧室	174.22	111
	第3閲覧室	41.00	30
	グループ閲覧室(地下書庫閲覧室)	41.00	35
	A V 閲覧室	16.00	4
	ロ ビ ー	16.80	
	書 庫	1,107.00	
	ビジュアル資料閲覧室	30.00	14
	資料流通ホ ール	123.00	11
	館 長 室	28.00	
	事 務 室	146.37	
	点字翻訳閲覧室	6.00	2
	そ の 他	396.45	
	総 面 積	2,358.00	
8号館地下閲覧室	第4閲覧室	44.00	48
	第5閲覧室	68.00	68
	総 面 積	112.00	
分館 (アジア関係図書館)	閱 覧 室	134.00	54
	書 庫	387.00	
	事 務 室	26.00	
	そ の 他	18.00	
	総 面 積	565.00	
合 計		3,035.00	545

※大学・短期大学共用

## (2)開館日と開館時間

2007年度の開館日数は日曜祝日や年末年始の開館を含め、合計302日である。また、開館時間は本館では平日が午前9時から午後9時30分までの12時間30分体制（一部の閲覧室は午後10時に閉館する13時間体制）、土曜日が午前9時から午後8時までの11時間体制（一部の閲覧室は午後9時に閉館する12時間体制）、分館は平日が午前9時から午後6時20分までの9時間20分体制、土曜日が午前9時から午後5時までの8時間体制をとっている。

なお、過去3年間の開館日数の動きは表11-8のとおりである。

表 11-8

(日)

	2005年度	2006年度	2007年度
開館日数	301	304	302

※大学・短期大学共用

## (3)閲覧室の座席数

閲覧座席総数は、545席で学生収容定員の13.6%となっている。

## (4)図書館の利用状況と館外貸出

本学図書館の2007年度の利用者数は、延べ140,694名で在学生総数4,874名の30倍以上となり、実質的には1日の入館者は平均465.87名で、在学生の約10名に1名の割合で図書館を利用していることになる。図書館の利用者（入館者）総数は表11-9のとおりである。

表 11-9

(名)

	2005年度	2006年度	2007年度
入館者総数	144,639	146,921	140,694
1日平均入館者数	480.52	483.29	465.87

※大学・短期大学共用

また、本学図書館の年間貸出冊数は2007年度が47,745冊であり、過去3年間の館外貸出数は表11-10のとおりである。

表 11-10

(冊)

	2005年度	2006年度	2007年度
学 生	34,649	37,949	42,583
教 職 員	3,562	2,200	2,806
その他	1,211	3,366	2,356
合 計	39,422	43,515	47,745
学生1人あたりの貸出冊数	7.45	7.95	8.74
1日平均貸出冊数	130.97	143.14	158.10

※大学・短期大学共用

#### (5) レファレンスサービスとオリエンテーション

本学図書館は館内に専用レファレンスカウンターを設置して利用者からの質問に答えている。その内容は主に事項調査、所蔵調査、利用指導の3つに分かれている。

また、本学図書館が行っているオリエンテーションには、図書館主催のオリエンテーションと、教員から図書館が依頼されて行う授業内オリエンテーションがある。図書館が主催するものについては、「新入生オリエンテーション」、「新入生歓迎ライブラリー・ツアー」、「図書館利用の仕方—入門編」、「図書館利用の仕方—コンピュータによる資料検索」、「論文作成のための資料検索」などがある。さらに、図書館利用指導はオリエンテーションとは別に、レファレンスワークの一環として、希望者に対し随時図書館の利用指導を行っている。なお、「授業内オリエンテーション」は授業の内容に応じた2次文献（辞書・辞典・地図・年鑑・目録・抄録等）や3次文献（書誌の書誌）の紹介と、その使い方が中心となっている。

なお、各種オリエンテーションの参加者や大学院生全員には図書館の概要を説明した『LIBRARY GUIDE』を配布し、サービスや特徴、さらには発信内容を周知するようにしている。

#### (6) 図書館の地域への開放と新聞報道等での一般社会への情報発信

本学の生涯学習計画の一環として本学図書館は「京都外大図書館市民利用制度」を設けている。これは一年間の有料登録制（新規登録3,000円、継続登録1,500円）で、登録利用者は最大6冊の館外貸出が受けられる。また、この制度専用のホームページ「みんなのための国際研究ライブラリー」を作っている。

この「京都外大図書館市民利用制度」の過去3年間の登録者数は表11-11のとおりである。

表 11-11

(名)

	2005 年度	2006 年度	2007 年度
市民利用制度登録者(内、継続登録者)	21(4)	50(10)	53(15)

さらに、本学図書館が主催する稀観書展示会の開催予告や、新しく作った主題別書誌データベースなどを新聞等報道機関にリリースして一般社会への利用情報を発信している。

なお、本学図書館が新聞等で報道された過去3年間の記録は表 11-12 のとおりである。

表 11-12

記事のヘッドライン	掲載年月日	新聞・雑誌社名	内 容
「ポルトガル語は5大陸のパスポート サンパオ大統領、京都外大を訪問 学生たちに講演」ほか	2005 年 5 月 23 日(月) ～5 月 24 日 (火)	毎日新聞 他 5 紙	「ポルトガル共和国大統領の来学と貴重書展示会」について
「歴代ノーベル文学賞受賞者 蔵書 5000 冊突破 データベースで書店など協力受け 京都外大付属図書館 スウェーデン語版や古書など入手困難な作品含む」	2005 年 10 月 26 日(水)	京都新聞	本学図書館ホームページ「データベース・ノーベル文学賞」について
「下京・七条中生 中学生の目線で児童文学書紹介 大学の図書館で職場体験」	2005 年 10 月 27 日(木)	京都新聞	京都市「生き方探求・チャレンジ体験」で中学生受け入れについて
「「環境」検索おまかせ 議定書発効 1 年記念 蔵書 2300 冊データベース化 京都外大付属図書館」	2006 年 2 月 16 日(木)	京都新聞	本学図書館ホームページ「地球環境を守るために」について
「環境関係の蔵書データベース化 京都外大図書館」	2006 年 2 月 17 日(金)	読売新聞	本学図書館ホームページ「地球環境を守るために」について
「世界への扉開け 2 万 8000 冊データベース 国名から資料一覧 国連加盟 50 年で京都外大図書館」	2006 年 12 月 18 日(月)	京都新聞	本学図書館ホームページ「世界の言語と国際地域研究」について

「ザビエル生誕 500 年展 開く 京都外国語大学」	2007 年 1 月 17 日 (水)	教育学術新聞	フランシスコ・ザビエル生誕 500 年記念稀観書展示会「日本をヨーロッパに紹介した戦国期の宣教師たち」について
「文明開化の「ちりめん本」 京都外大 創立 60 周年記念し資料公開」	2007 年 5 月 17 日 (木)	京都新聞	学校法人京都外国語大学創立 60 周年記念稀観書展示会「文明開化期のちりめん本と浮世絵」について
「カンボジアへ絵本贈ろう 字を知らぬ子が抱いて喜んだ あす京外大 大学生が体験語る」	2007 年 11 月 1 日 (木)	京都新聞	フォーラム 学生と図書館「絵本で繋がる国際交流」について
「日本の文化遺産世界へ発信 源氏物語、紫式部日記・・・所蔵 530 冊 京都外大図書館データベース作成 9 ヶ国語で紹介」	2007 年 11 月 13 日 (火)	京都新聞	本学図書館ホームページ「世界で読まれる源氏物語」について
「源氏物語、紫式部日記など所蔵 530 冊のデータベース作成 — 京都外大図書館、9 ヶ国語で」	2007 年 12 月 5 日 (水)	KIPPONEWS : 関西トピックス 第 557 号	本学図書館ホームページ「世界で読まれる源氏物語」について

#### (7) 情報検索設備と視聴覚機器の配備

情報機器類はメインサーバを 1 階サーバ室に設置し、これと接続する利用者端末 24 台（分館 3 台を含む）をはじめ、利用者用集中打ち出しプリンター 2 台（分館 1 台を含む）、CD-ROM 専用機 1 台、業務用端末 18 台、プリンター 6 台などを本館と分館に配している。また、AV 閲覧室には、LL ブース 4 台、マイクロリーダー 1 台、点字翻訳閲覧室には 3 ヶ国語に対応できる視覚障害者用コンピュータ点字端末 2 台、拡大読書機 2 台を備えている。なお、前述のとおり本学には図書館とは組織を別にするマルチメディア教育研究センターがあり、視聴覚機器類は同センターを重点にして配備されている。

さらに、第 1 閲覧室や第 4 閲覧室、第 5 閲覧室には利用者が持ち込んだパソコンを運用できる設備も備えている。

なお、図書館が保有する情報機器類の詳細は表 11-13 のとおりである。

表 11-13

(台)

種 類	マイクロダー	テープレコーダー	ビデオレコーダー	CD・LDプレーヤー	DVDプレーヤー
台 数	1	4	4	3	1
種 類	点字用パソコン (翻訳機)	利用者端末	プリンター	拡大読書器	
台 数	2	24	2	2	

※大学・短期大学共用

(8) その他の利用環境を向上させるための特徴的な整備の状況

## ア. 稀観書展示会の開催

本学図書館は毎年定期的に所蔵している稀観書の展示会を「特徴ある図書館活動」として開催している。これは、主に学内の学生・教職員を対象にして開催しているものであるが、新聞社や報道機関にリリースして一般市民にも公開している。また、展示会の開催ごとに配布する解説付き展示目録は、展示会の終了後にデジタル化してホームページで公開している。

なお、過去3年間に開催した稀観書展示会は表 11-14 のとおりである。

表 11-14

年 度	稀観書展示会タイトル
2005年度	ポルトガル共和国大統領ジョルジェ・フェルナンド・ブランコ・デ・サンパイオ閣下御来学記念図書展 日本におけるドイツ年 2005 / 2006 記念稀観書展示会 「日本で知られたドイツの世界」
2006年度	フランシスコ・ザビエル生誕 500 年記念稀観書展示会 「日本をヨーロッパに紹介した戦国期の宣教師たち」
2007年度	学校法人京都外国語大学創立 60 周年記念稀観書展示会 「文明開化期のちりめん本と浮世絵」

## イ. フォーラムの開催

本学図書館は毎年、学園祭協賛行事として学生・教職員を対象とした「図書館フォーラム」を開催している。テーマとしてとりあげる内容は、市民利用者の発表や大学院生の図書館利用、学生のボランティアについてなど、様々である。

過去3年間の図書館フォーラムは表 11-15 のとおりである。

表 11-15

2005 年度	
フォーラム	学生と図書館「私が見た図書館 院生の立場から」 発表者：大学院生 5 名 場 所：図書館第 3 (大学院) 閲覧室 開催日：11 月 4 日 (金)

2006 年度
フォーラム 学生と図書館「市民利用をする中で 私の見た大学図書館」 発表者：京都外大図書館市民利用制度の登録者 2 名 場 所：第 2 閲覧室 開催日：11 月 4 日（土）
2007 年度
フォーラム 学生と図書館「絵本で繋がる国際交流」 発表者：本学学生 2 名と院生 1 名 場 所：第 2 閲覧室 開催日：11 月 2 日（金）

ウ．図書館報とホームページでの発信

冊子体である図書館報『GAIDAI BIBLIOTHECA』は1970年に創刊され、学生・教員・卒業生・一般市民利用者・図書館員に執筆を願い、書評、文献紹介、図書館利用体験談、留学生の図書館利用の感想、また、展示会やフォーラムなどの開催や新規図書コーナーの紹介などの内容で構成し、利用環境を高める上でのメディアの一つとなっている。年に4回、B5版で28ページから30ページを超える内容で刊行し、刊行後はデジタル化してホームページで公開している。

また、本学図書館のホームページでは図書館ニュースや稀覯書紹介、デジタルアーカイブ、さらには、本学図書館が独自で作成し特徴的な検索メディアとなっている主題別書誌データベースなどを随時公開しており、図書館報と共に本学図書館が目指す「発信型図書館」の中心的なメディアと位置づけている。

なお、ホームページで発信している主題別書誌データベースは表 11-16 のとおりである。

表 11-16

データベース名	内 容
図書館総合目録	Online Public Access Catalogue
ニッポナリアCD-ROM	本学図書館所蔵の日本関係洋書目録
世界の美本ギャラリー	本学所蔵の貴重書解説
世界の新聞と雑誌	本学図書館所蔵の言語別有名新聞と雑誌
各都道府県別資料データベース（全国ふるさと情報）	各都道府県別資料の蔵書DB
所蔵データベース「京都」	京都関係図書の蔵書DB（和書）
Kyoto in the world ～世界の国々で書かれた京都～	京都関係図書の蔵書DB（洋書）
古都の雅をもとめて	外国で出版された京都関係文学図書の蔵書 DB
世界で読まれる源氏物語	源氏物語関連の蔵書 DB
デジタル図書館報	『GAIDAI BIBLIOTHECA』のデジタル版

卒業生の皆さんが書かれた本と資料のデータベース	卒業生の方々の著作物の所蔵 DB
世界の旅を素敵なものに	世界各国の旅行案内書 DB (和書)
今、日本と世界は!	日本と世界の出来事や話題に関する所蔵資料 DB
100年前の日本と世界?	100年前の人物や出来事に関する所蔵資料 DB
水を考える	水に関する所蔵資料 DB
国別にみる児童文学	児童図書所蔵資料 DB (和書)
報道にみる本学図書館	本学図書館を取り上げた新聞記事 DB
『講義概要』に示された参考文献	『講義概要』に記載された参考文献の所蔵 DB
就職試験・資格試験問題集	後援会寄贈の就職・資格試験問題集 DB
論文・レポートなどを書くための資料データベース	論文・レポート作成に役立つ図書の DB
世界を感動させた作家たち (文学系)	約 42 データベースの集合体
世界の言語と国際地域研究	約 100 データベースの集合体
あの映画・あの言葉 スクリプトで外国語を学ぶために	外国映画翻訳図書の所蔵 DB
貴重書デジタルアーカイブ	デジタル化された貴重書を閲覧できる DB 7 タイトル
デジタル展示会～世界と日本～	稀観書展示会のデジタル版 14 回分
地球環境を守るために	環境問題に関する所蔵資料 DB
データベース・ノーベル文学賞	ノーベル賞受賞文学者 DB (和・洋書)
あなたに役立つ言語圏別資料検索	言語圏別の蔵書 DB (和書) 7 言語
世界の言語資料を探る	各言語関係の蔵書 DB (和・洋書)

#### エ. 一般社会への資料の提供

本学図書館は、教科書会社やテレビ局からの依頼に応じて稀観書を中心とした資料提供を行っている。また、博物館等で開催される展示会にも出展協力をしている。2007年度はこれらを合計して26件の申し込みがあり、そのすべてに協力した。

なお、過去3年間の稀観資料の対外協力は表11-17のとおりである。

表 11-17

(件)

	2005年度	2006年度	2007年度
写真掲載	17	17	23
展示会出展	1	1	1
テレビ放映	0	2	2
合計	18	20	26

## (情報インフラ)

### 学術情報の処理・提供システムの整備状況、国内外の他大学との協力の状況

#### 【現状の説明】

本学図書館は 1995 年 9 月からコンピュータ・システムを導入し、同時に国立情報学研究所（当時の学術情報センター）の所在目録情報サービス（NACSIS-CAT）に参加した。その後、学内 LAN が整備されたことによって図書館の情報検索は学内のどの場所からも行えるようになり、近年は新しい機能を付加することによってその機能を高めてきている。

#### (1) 図書館システム

本学図書館の図書館メイン・コンピュータ・システムは 1995 年に導入して既に 13 年を経ようとしている。その後も、バージョン・アップを重ねて多くの機能を付加させながら学内はもとより学外にも情報を発信できるシステムとしてきた。このシステムは当然のことながら、資料の発注から納品、支払、整理、書誌データの蓄積、提供の業務、さらには、館内の統計など管理業務までが行えるようになっている。また、携帯電話からの検索や利用者個人が貸出予約や返却日など必要情報を確認できる機能も付加させている。特徴的な点は本学図書館独自で主題別書誌データベースの作成まで行えるところである。

国立情報学研究所とのシステム面での関係では、本学図書館は NACSIS-CAT や同じく NACSIS-ILL の機能に接続している。さらに、学外からは同システムのインターネット版を使って検索が可能となっている。

ハード機器は 5 年のリースアップごとに最新機種を導入している。近年はサーバの数を増やし、書誌検索と外部データベースなど他の情報と分けたことによって、効果的な検索ができるようになったものと考えている。

#### (2) データベース

本学図書館のデータベースは、館内の全ての蔵書情報から成る総合データベースの他、同じく館内で作る主題別書誌データベースと本学図書館が作成に関与しない学外データベースの三種類に分かれる。この内、主題別書誌データベースは、例えば「地球環境を守るために」というデータベースでは、予め「気候・気象」、「大気汚染」、「異常気象」などの想定できる検索項目をできるだけ多く図書館員が作っておき、利用者は資料の必要項目をクリックするだけで、検索画面に進むことができるものである。現在はこの主題別書誌データベースは 29 タイトルが作成されており、学外へも公開して評価を問うこととしている。（この一覧は 177～178 ページの表で示したとおりである。）

外部データベースは、国立情報学研究所の「NACSIS Webcat」や「GeNii」をはじめ、国立国会図書館の「NDL-OPAC」を中心にして、国内で作られている商用データベースの「朝日新聞 聞蔵」、「日外 Web Service MAGAZINEPLUS」、「Japan Knowledge」、またアメリカの「EBSCO Master File Premier」や「EBSCO Newspaper Source」、「EBSCO Fuente Academica」など合計 19 タイトル（内、商用データベース 13 タイトル）と接続している。

なお、外部データベースの一覧は表 11-18 のとおりである。

表 11-18

データベース名	内 容
国立国会図書館 NDL-OPAC	国立国会図書館の蔵書検索
国立情報学研究所 Webcat	全国の大学等の所蔵 DB
国立情報学研究所 GeNii	学術情報全般の DB
国立情報学研究所 NACSIS-ELS	学協会誌の画像 DB
EBSCO Master File Premier	外国雑誌オンライン DB
EBSCO Newspaper Source	英語新聞 DB
EBSCO Fuente Academica	スペイン語雑誌 DB
日経テレコン 21	日経 4 紙等の全文検索 DB
朝日新聞 聞蔵Ⅱ	朝日新聞の記事検索 DB
J-BISC	国立国会図書館所蔵の図書目録
日外 Web Service MAGAZINEPLUS	雑誌、紀要の記事索引 DB
マジカル KYOTO	京都府中小企業団体中央会製作の京都関係 DB
e-レファレンスツール 人物レファレンス事典	人物レファレンス事典 DB
e-レファレンスツール 文学全集綜覧	文学全集綜覧 DB
e-レファレンスツール 翻訳図書目録	翻訳図書目録 DB
Japan Knowledge	主要辞書・辞典 DB
Kenkyusha Online Dictionary	英和・和英辞書の複合検索 DB
Encyclopaedia Britannica Online	『ブリタニカ百科辞典』の DB
京都外国語大学卒業論文 CD-ROM	本学教務部作成の卒業論文 CD-ROM DB

### (3) 遡及入力の実状

カード目録をコンピュータ目録に変える遡及入力は、前年度までに全蔵書冊数 506,190 冊中、423,226 冊になっている。残り 82,964 冊で、現在 83.6%が終了している。新規作成を含め年間平均、37,000 冊がコンピュータ目録化されており、残りは難解な外国語ではあるが約 4 年から 5 年で遡及入力が完了することになる。

### (4) 学内ネットワーク

学内のネットワークについては大学の総務部門の管轄であるが、この学内 LAN を利用して図書館が行う情報の発信は学内の全ての端末から利用することができる。

### (5) 図書館ネットワークと相互利用

本学図書館は日本図書館協会と私立大学図書館協会、ならびに(財)大学コンソーシアム京都の図書館共通閲覧システムに加盟している。特に、私立大学図書館協会の京都地区協議会では、その下部組織の相互協力連絡会で共通閲覧証協定と相互貸借協定に参加している。また、国立情報学研究所との関係については、ILL や Webcat を利用する中で、主に外国文献のデータを作成してアップロードする傍ら、同研究所に豊富に蓄積された文献のデータをダウンロードして大いに活用している。

次の表 11-19 は本学図書館の過去 3 年間の相互利用（相互協力）全体の状況である。

表 11-19 (件)

	2005 年度		2006 年度		2007 年度	
	依頼	受付	依頼	受付	依頼	受付
相互利用	107	264	94	258	57	215
相互貸借	40	127	76	267	50	248
文献複写	187	103	325	273	224	326
レファレンス	124	155	213	240	118	129
合計	458	649	708	1,038	449	918

上記の表 11-19 のとおり、相互利用（相互協力）においては、外部からの受付が多くなっている。また、本学図書館から他大学図書館へ相互利用を依頼する中で、大学院生の希望は資料貸借が全体の 28%、文献複写依頼が同じく 35.71%になっている。

なお、別途国立国会図書館には同図書館が作る「データベース・ナビゲーション・サービス (Dnavi)」へ、本学図書館の主題別書誌データベースを 26 タイトルにわたって提供している。また、同図書館へは毎年定期的に開く稀観書展示会の出展目録（解説付き）や図書館報を毎刊行時に納本している。

#### (6) 外国の大学図書館との協力関係

外国の大学については本学の国際交流協定大学の図書館のホームページと接続し、OPAC での検索ができるようになっている。また、本学で刊行するスペシャル・コレクション目録や図書館報などを送付しているほか、一部の大学とは資料の相互交換を行っている。

### 学術資料の記録・保管のための配慮の適切性

#### 【現状の説明】

本学図書館は、かねてより失われたら二度と手に入らない資料を安全に保存するためにブックケースや帙（ちつ）を作るなどしてきた。また、人類の文化的遺産でもある稀観書を全頁にわたってデジタル化して現物保存し、ホームページ上で画像公開することにも着手するなど、保管の環境は確実に進展している。

#### (1) 図書資料の管理体制

本学図書館の蔵書は図書資料管理規定に基づき、中央館である本館と分館であるアジア関係図書館に所蔵している。教員が比較的身近で利用できるための研究用資料は、各学科等の共同研究室に貸出をする形で所蔵している。大学院生研究室についても同様に、規定に沿って図書館から研究室貸出を行っている。また、本館、分館ともに正面玄関には無断持ち出し発見装置であるブック・ディテクション・システムを設置して図書資料の管理体制を強化している。さらに、館外貸出や持ち出しのできない図書資料の利用のために、図書館内に 3 台（うち、分館 1 台）のコピー機をおいて著作権法に定められた範囲内での複写ができるようになっている。

なお、分館はその別名の通りアジア関係の資料を中心に所蔵しているが、この分館の地下書庫だけは本学図書館の全ての学術雑誌のバックナンバーを保管している。こうしたことから、この書庫の一部は集中的な保存書庫としての役割を果たしている。

## (2) 稀観資料の保存と管理

本学図書館は稀観書が蔵書構成の特徴の一つとなっており、この資料保存と管理は分館を含む3つの貴重書室と1つの準貴重書室において行っている。室内の環境を維持するため、機器や薬品を使って温度や湿度、害虫の駆除等にも配慮している。また、酸性から資料を守る保存箱も用意して対策を強化している。これらの資料の利用については、事前の申し込みに基づいて、稀観書室内の閲覧机や大学院生・研究者用である第3閲覧室でこれを認め、電子複写は全て厳禁とし、利用者が指定業者に依頼した写真撮影のみを認める場合がある。なお、稀観資料の一部は電子（デジタル）化してホームページ上で公開している。

また修復にも配慮し、外国語で書かれた稀観書やわが国の和装本などの修理を行ってきている。さらに、洋書ではブックケースを、また和書（和綴じ本）では帙を作って保存の対策としている。

## (3) マイクロ資料等その他の資料の保存と管理

マイクロフィッシュやマイクロフィルムは、専用保存ケースに収納して書庫の専用スペースに置き、館内のAV閲覧室で利用に供している。また、CD-ROM等、その他の資料についてはAV閲覧室で保存と管理を行い、同室内に配備された機器で利用に供している。

## (4) 館内の資料収容力について

本学図書館の図書資料の収容能力は、本館と分館を合わせて図書約53万冊、別に製本された雑誌約7万冊分で併せて約60万冊である。前年度の蔵書総数は50万冊であり、配架率は94%となっている。また、学術雑誌も配架率は90%を超えている。

### 【点検・評価】【改善の方策】

図書・電子媒体等における到達目標について点検・評価ならびに点検・評価の結果、明らかになった改善の方策は、次のとおりである。

① 図書・学術雑誌など資料の体系的整備と量的整備を行い、学内の教育と研究を支援する目標に対しての点検・評価を蔵書数・収集体制・蔵書構成・図書の受け入れ・学術雑誌・視聴覚資料の項目について行った。

#### (1) 蔵書数

文部科学省研究振興局情報課の最新の公表資料である「平成18年度学術情報基盤実態調査結果報告（平成20年3月刊行）」では、私立単科大学図書館の平均蔵書数は108,988.15冊であり、本学図書館は約4.41倍上回っている。また学術雑誌は、同年度の平均値が522種であり、本学図書館は約4.7倍多くなっており、図書、学術雑誌（和・洋共）共に量的には問題がないものと考えている。

こうしたことから、現在のところ特に改善の必要性はない。

## (2) 収集体制

資料の収集は、シラバスである『講義概要』に記載された「参考文献」の網羅的購入や教員の直接選択制を取り入れていることから、学内の教育面でのカリキュラムと研究者の研究領域に即応した収集を行ってきたものと考えている。また、学生が選択するシステムも昨年の貸出冊数が2千冊を超えていることから軌道に乗っているものと理解している。研究者である教員と大学院生用の図書についても、利用者の希望に応じた直接選択制をとっているため、資料面での研究体制は整っていると考えている。

なお、文部科学省研究振興局情報課の最新の公表資料である「平成18年度学術情報基盤実態調査結果報告（平成20年3月刊行）」では、私立単科大学図書館の資料購入費の全国平均は31,194千円で、本学図書館の63,069千円は平均を約2.0倍上回る数値となっている。

こうしたことから、現在のところ特に改善の必要性はない。

## (3) 蔵書構成

和書、洋書共に語学を通して言語圏を研究するための資料を体系づけて整備してきている。しかし、洋書に着目すると語学分野は充実していると考えられるものの、地域研究に関する資料の蓄積については充分であるとは言い難い。また、英語やドイツ語、フランス語の資料は比較的収集しやすいものの、スペイン語やポルトガル語、また英語圏であってもオーストラリアやニュージーランドで刊行されたものは、国内の洋書販売の流通機構では入手が困難であることがその原因に挙げられる。

こうした洋書と異なり、和書については利用者のニーズに応じた蔵書構成が構築されてきたものと考えている。最近では蔵書構成の幅を広げ、世界の文化を扱ったビジュアル系の書物やベストセラーになった書物などが学生の人気を集めている。

稀覯書を中心にしたスペシャル・コレクションは、外国語大学の図書館として「我が国の対外交渉」と「外国人の日本研究」、さらには「西洋研究」と「東洋研究」の4つの枠組みの中で、29タイトルのコレクションを作っている。数値的に見ると現在は充分であると考えており、従来から収集してきたものを補強・充実するように努めている。

改善の方策としては、国内の流通機構の問題で収集できない資料は、海外の交流協定大学と相互交換を強化して補充していく。

## (4) 図書の受け入れ

本学図書館の図書の年間受け入れは、予算の割に冊数が少ないのが特徴である。これは和書だけでなく、一冊当たりの単価が高い洋書も大量に購入しなければならないため、外国語大学系以外の図書館とは違った尺度を当てはめなければならないと認識している。各種のデータを見る限りでは全国の単科大学図書館の平均値を上回っているが、和書が大量に入った年は全体の受け入れ量は増え、洋書を大量に買った年は受け入れ冊数は減少する傾向にある。

なお、文部科学省研究振興局情報課の最新の公表資料である「平成18年度学術情報基盤実態調査結果報告（平成20年3月刊行）」では、私立単科大学図書館の平均値である3,421冊を1.99倍上回っている。洋書についても平均値である320冊を3.89倍上回っている。

こうしたことから、現在のところ特に改善の必要性はない。

#### (5) 学術雑誌

洋雑誌の大半はアメリカの取次店を通して収集しているが、洋雑誌の価格の高騰は本学図書館にとっても影響が現れてきている。これは為替の問題と捉えるよりも、むしろ専門誌そのものの値上がりと見るのが正しいと考えている。このような中で、現在はこれまでの購入数を若干下回る程度で維持している。また、洋雑誌の誌数の若干の減少は、電子ジャーナルで十分に補えている。

文部科学省研究振興局情報課の最新の公表資料である「平成 18 年度学術情報基盤実態調査結果報告（平成 20 年 3 月刊行）」と本学図書館の比較は①蔵書数で確認した通りであるが、その中で洋雑誌（外国雑誌）について見れば、本学図書館が 569 種で全国の平均値 113 種を約 5.0 倍上回っている。

こうしたことから、現在のところ特に改善の必要性はない。

#### (6) 視聴覚資料

文部科学省研究振興局情報課の最新の公表資料である「平成 18 年度学術情報基盤実態調査結果報告」（平成 20 年 3 月刊行）では、私立単科大学図書館の視聴覚資料の平均値が 4,671 タイトルであり、本学図書館（マルチメディア教育研究センターの所蔵は含まない）の 14,184 タイトルは約 3.0 倍となっている。

こうしたことから、現在のところ特に改善の必要性はない。

②館内の施設や設備などの環境整備を進めるとともに、開館日数など利用者にとっての利便性を図ることについて次のとおり点検・評価をおこなった。

##### (1) 図書館の規模

本館と分館共に過去に何度も改修を行い、同じ建物内にあった図書館所管以外の施設を書庫部分に繰り込むなどして狭隘化を緩和してきた。また、サーキュレーション・エリアの改装なども行い、古い雰囲気を保ちながら新しさと美しさを求めた工事を重ねてきている。しかし、図書館全体の面積は広いとは言えず、今後も新しい機能を展開できるスペースを確保する工夫と努力を重ねていかなければならない。

改善の方策としては、このことについて図書館の一存では対応できないことから、この内容について学内に周知して、今後も現状の理解を深める。

##### (2) 開館日数と開館時間

本学の利用度の現状を重視して点検し、他大学の実態とも比較した結果、支障がない。

こうしたことから、現在のところ特に改善の必要性は認められない。

##### (3) 閲覧室の座席数

2007 年度の閲覧座席総数は 545 席で学生収容定員は大学・大学院・短期大学を合わせて 3,939 名である。収容定員に対する座席数の割合は 13.8% となり、学外からの利用者を含めて支障はない。

こうしたことから、現在のところ特に改善の必要性は認められない。

##### (4) 図書館の利用状況と館外貸出

2007 年度の図書館利用者（入館者）数は、その前年度よりも 6,227 名減少しているが、貸出総数は前年度より 4,230 冊増加し、47,745 冊になった。また、学生貸出は前年度より

4,634冊増加し42,583冊となり、学生一人当たりの貸出数は8.74冊になった。本学は外国語大学として、カリキュラムの中に会話等の演習体の授業が多く、講義体が多い大学に比べレポート作成などの課題や宿題で図書館が利用されることは少ない。このような中で、学生貸出数は一人当たり10冊に近づいており、今後も学生の関心が高い資料を収集して行きたい。

改善の方策としては、学生一人当たりの貸出冊数を10冊に増加させるように努める。前年度の8.74冊は大きな前進であると考えている。今年度より大学の4年次生の卒業論文と卒業研究が必須化されるため、この目標に近づけるものと考えている。なお、図書館側の努力として学生の関心が高い分野の開架図書をさらに増加させる。こうすることで、利用者の増加が見込まれるものと考えている。

#### (5) レファレンス・サービスとオリエンテーション

レファレンス・サービスは複数の専任職員（レファレンス係）を配置してこれにあたっている。各種のオリエンテーションは、学生の図書館利用の向上に役立っている。また、教員が図書館へ依頼して開く授業内ガイダンスについては、30件前後の申し込みがあつて年々、増加している傾向にあるが、図書館としてはこの開催数をさらに伸ばしたい。

改善の方策としては、図書館運営委員会はもとより教員が出席する会議での周知を徹底し、さらに教員向けの印刷物等の媒体を通じて教員に対する働きかけを強化し授業内ガイダンスの件数を増やす。

#### (6) 図書館の地域への開放と新聞報道等での一般社会への情報発信

本学図書館が行っている「京都外大図書館市民利用制度」の登録者数は50名を超え、単科大学図書館としての規模を前提に予想していた人数を上回っている。

こうしたことから、現在のところ特に改善の必要性は認められない。

#### (7) 情報検索設備と視聴覚機器の配備

情報検索設備の検索端末数は現在の利用度からして、妥当な台数と考えている。視聴覚機器についても利用頻度から見て、現状の所蔵資料を運用するに足りる種類と数を備えているものと判断している。特に、視覚障害者用の機器は有効に役立っている。また、図書館と同じ建物である7号館の3階にマルチメディア教育研究センターがあり、ここには図書館を上回る規模の機器と備品が整備されている。

こうしたことから、現在のところ特に改善の必要性は認められない。

#### (8) その他の利用環境を向上させるための特徴的な整備の状況

##### ア. 稀観書展示会の開催

発信型の図書館を目指すために定期的に行っている稀観書展示会は、テーマの趣旨が歴史的な節目の年に焦点をあてたもので、例えば「フランシスコ・ザビエル生誕500年記念」や「日本におけるドイツ年記念」などで、専門的な貴重書を出展している。従って、一般の市民や学外の研究者が見学を訪れることが多い。毎回、日曜日を含めて一週間開催し、地元の新聞でも開催を紹介されているが見学者は500名までであり、見学者の更なる増加を目指している。

改善の方策としては、開催予告として案内ポスターや案内はがきを作り学外にも周知するように努めているが、特に近隣の自治会や商工会、大店舗などを通じた市民への働

きかけを行う。

#### イ. フォーラムの開催

このフォーラムは、毎年図書館の学園祭協賛行事として学園祭の期間中に開催するものであり、学生の主体的な学園祭行事が行われている中で50名を定員として行っている。これまで取り上げた著作権の問題などでは参加学生は少ない。むしろ、大学院生の図書館利用法や手作りの絵本を外国に贈っている学生の発表などの身近なテーマが人気を博している。図書館利用の環境を高める上で、新たなテーマを考えていきたい。

改善の方策としては、フォーラムが学園祭協賛行事であることから、テーマとして「学生の努力」を紹介するものを取りあげ、稀観書展示会と同様の方法でPRを行う。

#### ウ. 図書館報とホームページでの発信

図書館報はホームページと共に発信型図書館を目指す中で中心的な媒体であることから、学外にも多く配布している。図書館員の執筆は事務職員としての発表能力の向上に繋がるものと考え、SDの一環とも位置付けている。このため、一年間の成果を学内の『京都外国語大学アカデミック・レポート』に筆者別に主題を掲載して公表するなどして、図書館員の意欲と資質の向上に努めている。

また、本学図書館のホームページ「京都から世界へ」は発信項目の内容（コンテンツ）が増加して複雑になってきており、カテゴリーとアイテムの関係を見直すべき時期に来ていると考えている。

改善の方策としては、発信媒体を担う図書館員に個々が勉強を進める得意分野を確立させ、また、発信媒体そのものの内容構成は、常時進化させていかなければならず、今後も継続して工夫を重ねていく。

#### エ. 一般社会への資料の提供

教科書会社や報道関係への資料提供、また博物館等への出展協力は稀観書を中心としたものであり、本学図書館の社会貢献と考えている。新聞や報道関係などが求める迅速性に対応でき、一般社会で利用していただきやすい体制にするため、提供制度に改良を加えてきている。

こうしたことから、現在のところ特に改善の必要性は認められない。

③発信型図書館を目指し、学術情報の処理・提供システムの整備を進め、国内外の図書館との協力を計ることについて、次のとおり点検・評価を行った。

##### (1) 図書館システム

図書館のメイン・コンピュータ・システムは導入して13年を経過しているが、機能面での老朽化を指摘する部分は少ないと考えている。導入時に本学図書館が開発者に対して付けた多くの要望はその時点で実現・改良されて、その後に加えた機能も新鮮味のある働きをしているものと考えている。国立情報学研究所との接続関係も概ね良好に働いており満足している。

こうしたことから、現在のところ特に改善の必要性は認められない。

##### (2) データベース

主題別書誌データベースは、本学図書館の検索システムの大きな特徴である。現在の29

タイトルをさらに増やし、総合データベースとは異なる検索スタイルで利用者に情報を提供していきたい。図書館で検索項目を作っていくために、発信型図書館を目指すことを自覚して新しい検索システム網を整備したい。このことについては、本学図書館の独自の検索システムとして満足している。

外部データベースは、外国語大学図書館としてその作成の進展と日本国内での供給体制に不満を感じている。これは、英語圏を中心にした情報のデータベースが圧倒的に多く、他の言語圏のものが少ないことである。従って、本学図書館も英語圏以外の言語圏のもので本学の研究教育体制に見合ったものを探してはいるが、未だにその数は少ないのが現状である。

改善の方策としては、今後も学外のデータベースの進展状況や国内での販売内容を把握し、提供可能な状況であるならば速やかに接続する。

### (3) 遡及入力の実状

本学図書館のコンピュータ目録への遡及入力の進行状況は全蔵書冊数の 83.6%であるが、この作業は外国語大学図書館であるが故に大変な困難を極めている。例えば、英語では中世英語と呼ばれる範疇のもの処理には時間がかかる。また、ドイツ語でも花文字は現在のドイツでは殆ど用いられておらず、理解できないものが多い。また、国立情報学研究所にもこの種のデータが乏しく、参考になるものは少ない。さらに、これらのデータを外注で作らせて、その書誌情報を国立情報学研究所にアップロードすることなどは極めて注意深く取り組まなければならないと考えている。このように、外国語大学である本学図書館の書誌データの作成には語学力が必要で、刊行年の古い洋書は和書や現代英語文献等のデータ作成に比べ数倍の時間がかかるのである。

改善の方策としては、時間をかけてでも進めなければならないものであり、過去3年間の進展状況から見て、4年から5年後の遡及完了を見込んでいる。

### (4) 学内ネットワーク

本学の総務部門の管轄である学内ネットワーク（学内 LAN）を通じて、図書館に関わる情報を送っているが、現在のところシステム面で特に問題はない。また、当然のことながら、学内の端末から蔵書検索と学外データベースが円滑に利用できる。

こうしたことから、現在のところ特に改善の必要性はない。

### (5) 図書館ネットワークと相互利用

本学図書館はネットワークとその相互利用を大いに活用している。特に、私立大学図書館協会の京都地区協議会と大学コンソーシアム京都の図書館共通閲覧システムは活発で、資料の貸借や文献複写、閲覧などの相互協力は本学図書館として多くのメリットを得ている。国立情報学研究所の ILL 事業については、「依頼」と「受付」共に多大な成果を挙げている。

こうしたことから、現在のところ特に改善の必要性はない。

### (6) 外国の大学図書館との協力関係

英語圏以外のヨーロッパ言語圏の大学とは、日本国内の書籍販売網で書籍が入手できにくい関係上、資料の交換を積極的に進める必要がある。

改善の方策としては、日本国内で収集できない外国の資料を、海外の大学図書館と協力

関係を広げることで充実していく。

④学術資料の記録・保管のための管理体制を見直しながら発展させる目標に対する点検・評価は、次のとおりである。

#### (1) 図書資料の管理体制

本館と分館との関係は、どちらも同一キャンパス内にあり、必要が生じた場合の所蔵資料の移動は容易に行うことができる。特に、分館がアジア関係の資料を所蔵する図書館であることから、国際的な地域研究でアジアの国や地域とヨーロッパの国や地域などを比較する場合は、必要な資料を利用者が使うどちらかの図書館に移動しなければならない。しかし、利用者が調整して両館を利用していることや館員の定期的な行き来の際に資料が運搬されることによって弊害はない。また、資料の返却についても例えば分館で貸し出した資料は本館でも返すことができ、資料の運用と流通は円滑に行われている。

こうしたことから、現在のところ特に改善の必要性は認められない。

#### (2) 稀観資料の保存と管理

稀観資料の電子（デジタル）化は、江戸時代や明治時代に日本で刊行された外国語辞書から着手している。全頁を撮影の上、電子化すると経費が嵩むため学外へ補助金を申請して行っている。それでも電子化できる冊数は少ない。但し、この事業は今後、本学図書館の稀観資料の保存と公開を含む運用が重要であることを認識しているので、これまでの形で進めていく。

こうしたことから、現在のところ特に改善の必要性はない。

#### (3) マイクロ資料等その他の資料の保存と管理

マイクロフィッシュやマイクロフィルム、さらに AV 資料の保存や管理については万全とは言えないまでも、劣化や運用に支障をきたすことはないと考えている。今後は DVD などのニューメディアの保管と管理、さらには提供の頻度も増してくると思われるが、基本的には現在の形を継続させていく。

こうしたことから、現在のところ特に改善の必要性はない。

#### (4) 館内の資料収容力について

書庫の収容力と実際に収容している冊数の状況は次第に厳しくなっているが、最終的には「入れ物」と「入れる物」とのバランスであり、収納する図書を減じることとも方法論として考えられる。

改善の方策としては、これまで規定に基づいた廃書を進めるなどして、収容力の問題に対応してきているが、廃書にも限界があるため、本学図書館で利用度が低い古い自然科学系分野の図書などを倉庫に移すことも考えて、廃書との両面で対応する。